

## 平成28年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成28年12月19日(月) 13:30~16:40
2. 場 所 : TKP ガーデンシティ PREMIUM 名駅桜通口 (ダイヤビル3号館)  
【4F ホール4D】
3. 出席者 : 藤田委員長、石田委員、沖野委員、奥野委員、  
西條委員、辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員、
4. 議 事
  - (1) ダム等の定期報告
    - 1) 長島ダム
    - 2) 新豊根ダム
  - (2) その他報告
    - 1) 平成27年度 年次報告
    - 2) 平成28年の出来事
  - (3) 審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 長島ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた長島ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、長島ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、長島ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・ダムの暫定操作規則及び実際の操作をどう行うか考える必要がある。このため、現状での水系の安全度を踏まえた適切な操作を検討すること。

ii) 利水補給

- ・なし

iii) 堆 砂

- ・貯砂ダムの堆積土砂を適切に除去することにより、濁水対策につながる。

iv) 水 質

- ・植物プランクトンの経年変化については、季節変動などを整理した上で、優占種について適切に評価すること。
- ・クロロフィル a については、貯水池の基準点と補助点とを比較するとよい。

v) 生 物

- ・生態系被害防止外来種(特定外来種、要注意外来種、ワースト 100 に指定された外来種)については、確認された時点で生活史や生育・生息場所を考慮して対策を行う。
- ・ダム直下流地点の調査については、水環境が大きく変化したため、調査地点を再検討すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

○ 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣

旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

## 2) 新豊根ダム 定期報告について

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた新豊根ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、新豊根ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、新豊根ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i) 防災操作

- ・洪水時の発電施設を経由する防災操作については、今後、天竜川下流への影響も含めて表現すること。

#### ii) 利水補給

- ・揚水発電の評価については過大評価とならないよう検討すること。

#### iii) 堆 砂

- ・なし

#### iv) 水 質

- ・なし

#### v) 生 物

- ・魚の個体数が増えているということは、魚食性の鳥類が増えるという事もあるので、増加した原因とともに、生態系全般の変化を踏まえて、検討、分析する必要がある。
- ・今後、森林の施業の実態や植生遷移と対応させた鳥類の分析が必要である。
- ・ダム下流の大入川、大千瀬川は完成後 43 年間、残流域のみの流量に依存する環境が形成されている。本来の環境についても留意しておく必要がある。

#### vi) 水源地域動態

- ・今後、地域活性化に向けて佐久間ダムや設楽ダムと連携した取り組みが必要ではないか。

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。